

平成23年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯農林環境科学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

食料の確保ならびに農業生産の維持拡大は今も昔も大きな課題であり、これまで、さまざまな科学・技術の導入がなされてきました。

たとえば、水資源確保のための巨大なダム建設、灌漑（かんがい）のための川の付け替えや運河による引水、土地造成のための干拓・埋め立てなど、大規模な開発プロジェクトが行われてきました。また、農作物や家畜の品種改良も絶えず実施されており、近年では、植物や動物に対する人為的な遺伝子組み換え技術も活用されています。さらには、農業に役立てることを考え、多くの動植物が地域や国境を超えて世界的規模で導入されています。

これらは、農業分野における画期的な増産、効率化および労力軽減をもたらし、我々の食生活を安定化させてきました。しかし、一方では、大規模開発に伴う地域生態系の激変、在来の農作物・家畜の消失、遺伝子改変動植物や外来生物による生態系のかく乱などといった多くの負の要因も認められます。

現在の地球規模での急速かつ大幅な気候変動などのもとでは、食料の確保が一層重要な課題となっています。すなわち、我々が現代の社会で将来にわたって持続可能な農林水畜産業のあり方を創り出していくためには、自然科学にもとづく技術開発だけでなく、政治経済、歴史、文化などの人文・社会科学も含めた人類のさまざまな英知を総合して取り組む必要があります。

問1 下線の部分について、将来、その地域の農業や生態系にどのような影響を及ぼす可能性があるのでしょうか。あなたの考えを 500 字以上、600 字以内で述べなさい。

問2 今年、宮崎県で発生した家畜への口蹄疫（こうていえき）の感染流行は、生産性を重視した現在の農業が抱える負の要因を示した典型例といえます。これまでに例を見ないほどの今回の口蹄疫流行による直接的ならびに間接的な被害拡大の背景には、農畜産物の生産・流通のグローバリゼーション（地球規模化）や、口蹄疫ウイルスの高い感染力があるとされます。今、なぜこのような流行が起こったのか、また、それは地域社会にどのような影響を与えたのでしょうか。あなたの考えを 500 字以上、600 字以内で述べなさい。

平成23年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯農林環境科学科

出題の意図

この小論文の出題の意図は、学科のアドミッションポリシーにも密接に関わる生態系保全と持続可能な食料生産の問題について、評論家的立場ではなく、自らが事例に関与する立場に立って問題点を見だし、その解決策について考え、建設的な提案を論述させて、問題意識の深度を測る狙いがある。さらに、受験生にとって最新的话题を取り上げることで、科学を志す者として様々な視点から問題を注視し論理的に考察する能力を兼ね備えているか否かを見極める。